

棚田に吹く風



11 2011
月号
Vol.79
隔月刊

2 特集

駅から歩ける棚田

5 フォトエッセイ
棚田のすがた

6 棚田・里山からのたより
薩摩藩を支えた金鉱山・
坑夫の命をつないだ開拓田
鹿児島県薩摩郡さつま町永野

8 棚田番長
田んぼの生き物たち

9 棚田博士は今日も行く
中山道落合宿を囲む棚田
岐阜県中津川市落合

12 会員のひろば

14 棚田ネットワークの
かつどうノート
スタッフのつぶやき

15 Project Report



駅から歩ける 棚田



眼下に棚田が広がる（姨捨駅ホームより撮影）



上：姨捨棚田から善光寺平を眺める／下左：棚田と駅は目と鼻の先／下右：風情のある姨捨駅舎。ある新聞社のアンケートで「足を延ばして訪れて見たい駅」の全国第2位に選ばれたこともある。

善光寺平を見下ろしながら走る、JR篠ノ井線。姨捨駅に近づくほどなく眼下に棚田が広がります。この美しい景観は日本三大车窗の一つに数えられています。月夜にはそれぞれの田んぼに月が浮かび上がることから「田毎の月」として古くから親しまれてきました。25ヘクタール、約2000枚の棚田があります。一度は訪れてみたい絶景の棚田です。



長野県千曲市
姨捨棚田

棚田百選

全国に数多くある棚田の中で、車無しでアクセスできる棚田はなかなかありません。しかし、中には駅から徒歩で行けるアクセス抜群の棚田もあります！今回はそんな棚田を特集しました。

アクセス

JR 篠ノ井線姨捨駅を出て左方向へ、踏切を渡って下ります。約20分で棚田に到着です。



駅から歩ける棚田

本州編

アクセス

新潟駅からあつみ温泉までは、特急いなばで1時間30分。秋田駅からは同じく特急いなばで2時間。



羽越本線のあつみ温泉駅から国道7号を海岸沿いに30分程歩くと日本海と夕日が見える「暮坪の棚田」に着きます。南端に粟島を望み、晴れた日には、その先は大佐渡の島影も見える絶景の棚田です。



山形県鶴岡市
暮坪の棚田

アクセス

上毛高原駅から県道272号線に入りゆるい坂道の上って行く。



上越新幹線の上毛高原駅下車2・3キ、歩いて30分弱の距離でタクシードと5分くらい。さなざわの森に広がる曲線の美しい棚田は、首都圏から近いこともありオーナー制が人気を呼んでいます。



群馬県みなかみ町
さなざわ棚田

アクセス

横瀬駅から徒歩15分。



西武鉄道の横瀬駅下車、駅から1・3キ、徒歩で15分。棚田は緩やかな傾斜で約300枚とかなりの規模です。秩父盆地を見下ろす景観は見事。都心から近いこともあってオーナーさんに人気の棚田です。



埼玉県横瀬町
寺坂棚田

アクセス

京都駅からJR山陰本線で福知山駅までは約2時間。北近畿タンゴ鉄道で大江山口内宮駅までは約30分。一日10本程度の電車がある。



JR福知山駅から、若狭湾、丹後半島へつながる北近畿タンゴ鉄道「大江山口内宮駅」から25分ほど歩くと「毛原の棚田」があります。約600枚の田んぼが大江山の麓に広がっている様は、まさに壮観。



京都府福知山市大江町
毛原の棚田

棚田百選

駅から歩ける棚田

アクセス

岡山駅から津山線・誕生寺までは、2時間12分。誕生寺駅から徒歩30分。



岡山駅から津山市市へ向かう津山線・誕生寺駅から誕生寺川沿いを30分程歩くと「北庄の棚田」に着きます。88畝、2700枚の棚田があるとされ、百選の棚田の中でも最大規模を誇ります。



岡山県久米南町
北庄の棚田

棚田百選

アクセス

JR日田彦山線「筑前岩屋駅」から県道52号を北へ徒歩15分。県道沿いに広がる棚田。列車は一日10本程度。



約400枚の石積みみの棚田。歴史は古く、室町時代にさかのぼるともいわれます。地域に竹地区棚田景観保全委員会があり、行政のサポートも得て積極的に棚田の保全活動を行っています。



福岡県東峰村竹（合併前は宝珠山村）
竹の棚田

棚田百選

アクセス

JR久大線「杉河内駅」から東に1キロ程度、徒歩15分。一日10本程度の電車がある。



盆地の中央部に集落があり、集落を囲むように120枚の棚田が広がっています。地域では「山浦早水棚田の里づくり実行委員会」を組織し、農家・非農家を問わず集落ぐるみで棚田の保全に取り組んでいます。



大分県玖珠町山浦早水
山浦早水の棚田

棚田百選

アクセス

JR肥薩線「一勝地駅」から、球磨川の支流芋川沿いに県道15号を南へ2キロほど、徒歩25分（列車は一日10本以上あり）。



80枚の、石積みみの棚田。「JAKUMA」では今年、鬼の口棚田で田植え・稲刈り体験を企画・実施しました。同じ村内にもう一つ、百選の松谷棚田があり、それぞれに棚田保存会があって、保全に取り組んでいます。



熊本県球磨村・中屋集落
鬼の口の棚田

棚田百選



曼珠沙華咲く棚田

棚田は、人々に美味しいメシを食べさせる目的で耕されたに違いありません。その棚田は他にも多くの機能を発揮しています。

- 畦畔は山崩れを防いでいる。
- 梅雨時の大水を溜め国土を守っている。
- 降り注いだ水を地下へ静かに浸透させ浄化している。
- 広がる田は空気を浄化・冷却する。
- メダカ、カエルなど多くの生き物を育てる。
- 山紫水明の風景をつくり、人々の心を癒し和ませている。

こうした多機能をもつ棚田を生産米だけで評価し、「効率が悪い、捨ててしまえ」というのは、「音楽や絵画は役にたたない、捨ててしまえ」というのに似ているように思えます。都会に住む私たちこそ、こうした口車にごまかされないように気をつけなければならないでしょう。

この写真は福岡県星野村の棚田の姿で、幾重にも重なる金色の稲とそれを縁取る彼岸花に圧倒されつつシャッターをきりました。

棚田のすかた

写真と文
永田博義

Profile



永田 博義 ながた ひろよし

1938年、長崎県佐世保市生まれ。東京電機大学大学院修了。1956年、アルバイト先でDPEに興味を持つ。1976年、写真家・前田真三氏に邂逅し指導を受ける。1980年、東京都職員写真展特賞受賞。2003年、ポストカード「遺産 日本の棚田I・II」出版。2004年、写真雑誌「日本フォトコンテスト」において「遺産 日本の棚田」を1年間連載。現在、全国の棚田をはじめ農村風景を撮影している。千葉県在住。棚田学会会員。

- 個展 2009年「日本の棚田」 富士フィルムフォトサロン東京・同・大阪
- 写真集 「本土寺の四季」(1984) 「備楽園遺蹟」(1997)





川内川の支流・荒田川にそって長く広がる棚田

棚田・里山
からの
たより



薩摩藩を支えた金鉱山・ 坑夫の命をつないだ開拓田

鹿児島県薩摩郡さつま町永野

“薩摩は黄金の花ぞ咲く”と唄われた永野金山。江戸時代、西暦1600年の「関が原の戦い」から40年後、島津藩が財政難で窮乏していた時代に、家老の島津久通が江戸までの参勤交代の道中出雲の国（島根県）石見銀山から金探索の専門家（山師）を招き発見され、島津藩のドル箱となりました。その金山地域に点在する300年余の歴史を刻んだ棚田が、私たちさつま町永野区寺元地区の、山林地帯・荒田川の清流沿いに連なる、約300枚の石積み田圃です。

農家の高齢化と転出者で耕作放棄地が多くなり、このままでは金山棚田が消滅するのではとの危機感が高まり、耕地を守るため集落有志18名で2006年に寺元棚田保存会を立ち上げ、活動がスタートしました。

まずは休耕田の藪払いから開始。作付け準備をする中で会員から「都市部からお客を呼んで農作業体験

農場を始めよう」との意見があり、すぐ新聞広告での募集を行い8家族の応募がありました。最初は全てが手探りで状態が、迎える側の農家もすべてが初体験でした。

今年で6年目、都市部からの体験オナーも増えて、耕作地も3度移動し、周りの耕作放棄地を甦らせながら、昔の状況に戻ってきました。全員が仕事の傍らの農業なので、週1回夕方に集合しての作業を繰り返し行い整備が広がり、耕作者も多くなりました。地域の方々の理解と協力の賜物と感謝するばかりです。

金山発見当時、余りにも産出量が多く（佐渡金山を上回る産金量）、徳川幕府の採掘許可が出て3年余りで中止命令が出ました。それはこの年、全国的に広がった飢饉のためといわれていますが、実は幕府が薩摩藩増強への妬みから13年間の採掘中止。当時5000人ほどの坑夫達は退去させられました。



左：田植え後の集合写真／右：外国人も参加。今はベテランオーナーです

■ 寺元の棚田へのアクセス

【公共交通】 JR肥薩線大隅横川駅下車。バスの便が少ないので、タクシー利用がお勧め。約20分

【自動車】 九州自動車道横川ICを降りて県道50号線を西へ約20分

■ お問い合わせ

さつま町役場農政課
Tel.0996-53-1111 (担当：今村)



このとき、熟練坑夫80名ほどがこの地に住み着き、再開を待ちながら樟脳生産で生計を立て、その傍ら山林を切り開いて石積み棚田を開墾したといわれます。金山川の支流に点在する風光明媚な癒しの里です。

明治の初期は100戸ほどあった集落も現在は28戸に減少して、農家も10戸(兼業)。高齢化するなか耕作地の維持管理の困難に直面していますが、まだまだ取り組み次第では存続も可能と、プラス思考で取り組んでいます。

幸いに棚田周辺には自然がいっぱい。荒田川沿いに梅(南高梅)・

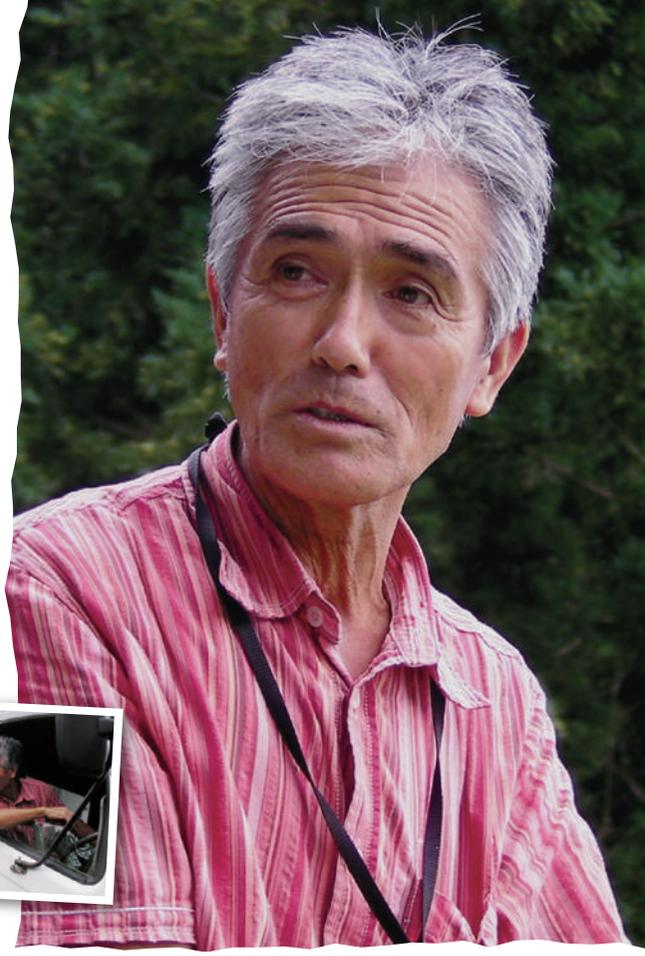
栗・金柑・柿なども栽培され、棚田交流の成果により道路も整備され、朝夕は散策路として高齢者の歩く姿が多く見られるようになり賑わいを見せています。また、棚田周辺のロケーションが良くなり、3年前から永野区主催の「黄金の里ウォーキング大会」のコースの一部として、昨年は750名の参加者を迎えるイベントになりました。

人数は減少しましたが、先人達が苦勞して開拓した宝物であるこの歴史ある棚田を、なんとか守っていきたく思います。

寺元棚田保存会会長 黒田敏隆



左：金山跡の胡麻目坑道／中：ウォーキングコースの途中にある「田の女神」との握手ポイント。地元のおかさんが田の神様に扮し、大人気でした／右：バインダーで稲刈り。真剣な表情です



棚田の番人 第三回

棚田番長

新潟県長岡市
木沢棚田

平澤 勝幸 (61歳)



この人の本職は何だろう。農家民宿「木沢ハウス」のオーナーであり、週末には古民家を利用した「里山食堂」で蕎麦打ちに精を出す。鯉池の造成や豪雪の雪下ろしには得意の重機で汗を流す。びっくりしたのびザ作りだ。趣味が高じてピザ窯を4個も作り、このうち2個は移動式。野外イベントがあると車で出張実演し若者に大人気だという。そして平澤さんは美しい棚田の保全に力を注ぎながら、高齢化する集落の活性化に取り組んでいる。最近住所を市街地の別宅から集落に移し、密着型の活動へと本腰を入れてきていることはなんとも頼もしい。

田んぼの生き物たち

第28回 ジョロウグモ



漢字で書くと女郎蜘蛛。妖艶な名を持つていますが、上臈じょうろうという身分の高い高貴な女性が由来という説もあります。網を観察すると、高度な技で作りに上げられた三重構造であることが分かります。トンボやセミなどの大型昆虫が1枚目の網を突き抜けても、2枚目、3枚目で確実に捕獲される進化したメッシュです。9〜10月に成虫になり、その目立つ姿で秋の虫たちを待ち構えます。もともと南方系の生き物で、北海道を除く日本列島に広く分布しています。しかし、昨今の平均気温の変化で、静岡では2月まで生き延びたという記録もあります。

立ち会いました。腹と頭から古い衣装がするりと抜け、ゆっくりと8本の脚が抜かれる様は、エビが体を深く「くの字」にしているような姿でした。一皮脱いだメスのそばに、居候している小さな旦那さんが目に入り、果たして彼は無事嫁さんと契りをお交わすことができるのかと、心配になりました。カマキリと同様に、果た



撮影：桐原真希

様、命がけの結婚です。嫁さんが食事中にこっそり交際しないと食べられてしまう運命。クモの種類と多さも里山の豊かさの証明。無事次の世代に命を上げるよう身近な隣人を見守っていききたいものです。

以前私はジョロウグモの脱皮に
(自然観察指導員 桐原真希)



棚田博士
は
今日も行く！
中島峰広の
全国棚田行脚

中山道落合宿を囲む棚田

岐阜県中津川市落合



なかしま みねひろ
中島 峰広 (棚田博士)
早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO
法人棚田ネットワーク代表。棚田学会会
長。全国棚田(千枚田)連絡協議会理
事、棚田サミット開催地選定委員会委員
長。1933年宮崎県生まれ。早稲田大
学教育学部地歴科卒。2004年まで早
稲田大学教育学部教授。著書に『日本
の棚田—保全への取り組み』『百選の棚
田を歩く』『続・百選の棚田を歩く』(以
上、古今書院)。現在、百選外の棚田に
ついての執筆準備のため全国行脚中。

岐阜県中津川市は、県の南東端、長野県に接し、中山道の宿場町から発展した都市。現在は電気機器、製紙、プラスチック製品などの工業が盛んである。落合は、中津川宿と島崎藤村の生地として知られる馬籠宿の間にある中山道の宿場町、昭和の大合併まで落合村として独立した行政単位であった。この落合については、教え子であるNHK岐阜支局のプロデューサー村上裕康君に景観の優れた棚田のあることを教えてもらっていた。地形図を広げ調べてみると、落合宿は盆地のなかにあり、これを囲むように、木曾川に注ぐ落合川を挟み、右岸に山中・大久手・清水平、左岸に山の田・三五沢・与坂などの集落が連なる。これらがかつての落合村の領域で、盆地を囲む集落の斜面は一面棚田で埋められていることがわかった。

落合宿と馬籠宿の間、山中・大久手を訪ねる

2010年6月下旬、これら集落の一つ落合宿と馬籠宿の間にある大久手を訪ねることになった。名古屋駅からJR中央本線の電車に乗り中津川駅で下車。駅前から北恵那交通の馬籠行きバスがある。1日14往復のうち13便が中切経由、1便のみが大久手経由である。しかし、中切経由のバスに乗っても、途中の落合で下車、沖田の交差点を右折して300mほど進み左折、落合川に架かる夜明け大橋を渡れば山中・大久手の集落である。集落は、鷹巣山(凡天山)の山麓、馬籠へ向かう道に沿い標高310mから500mの斜面に民家と耕地がひろがっている。棚田は、落合川左岸の山の田・三五沢などとはほぼ同じ高さの標高420

m以下の斜面にみられる。落合川の対岸から見える棚田は2本の農道が垂直に立ち上がり、3列に分かれ2列が20段ほど、1列が10段前後、石積みの高さは1・5〜2・0m、一枚の広さは3〜4m²、整然とした感じがする。落合川を渡り、集落へ向かって坂を上りはじめると、やがて中心部の棚田が見えてくる。明沢川に面する傾斜6分の1、標高330〜400mの斜面に集落を横断する道路を挟み上下に配列されている。上下それぞれに10段前後の棚田があり、直線に近い農道で5つのブロックに区画され、計画的に拓かれたことを窺わせる。直線の法面は基部が石積

み、その上に土坡がのっかっているものが多い。形状は長方形、各圃場の面積は2〜3ア、法面の高さは2ア前後。形も大きさも揃っているのがこの棚田の特徴である。

大久手用水と棚田の歴史

これには理由があり、斜面に拓かれている棚田の大部分は、1920年に完成した大久手用水開削後、計画的に開田されたためである。大久手用水は、落合川上流の湯舟沢川、標高450ア地点の味噌野で引水され、4・5ア²の長さがあり、山中・大久手・清水平の棚田を灌漑している。このことから、大久手の棚田が標高420ア以下にあるのも理解できる。江戸後期1789（寛政元）



上：集落と棚田の遠景
中：活性化組織・田舎楽園の建物。巨大なお釜が見える
下：集落の長老・小幡さんは、田舎楽園の実質的な責任者

年に出版された「中山道筋道之記」のなかの絵図では、落合川左岸の井中用水掛かりと右岸の明沢川上流部のみ水田が描かれているという。右岸側は、大久手用水が開削されるまでは落合川の支流である明沢川の河谷に湧水を頼りにした小規模の水田がみられたに過ぎず、それもしばしば干害を蒙っていたようである。したがって右岸の斜面一面に棚田がみられるようになったのは1920年以降のことである。

集落の集会所近く、道路際に法面の高さが2・5アはある土坡の棚田が数枚現れる。法面には草刈りのために小段が設けられ、一枚が5ア前後の広さがある。これらは1980〜1989年に行われた

国の補助事業により整備された棚田である。地区の水田28・2アのうち、5・2アが整備され、石積みから土坡の棚田にかわったそうである。

地域の拠点「田舎楽園」へ

地域活性化の拠点になっている「田舎楽園」を訪ね小幡保金さんに会った。小幡さんは70歳。60歳の定年まで製紙会社に勤務、70アの水田を耕作してきた兼業農家。現在は農業に専念、70アのほか乗用の大型機械を所有しない4戸の兼業農家の水田38アも引き受け耕作している。中津川農事改良組合副会長という公職にあるため、昨年NPO法人になった「田舎楽園」の代表者にはなっていないが、事務所には常駐している実質的な責任者。また、中山間地域等直接支払制度や農地・水・環境保全向上対策事業などの地区代表も務める集落の長老である。

家族は奥さん73歳、会社員の息子夫婦と小・中学生2人の孫と同居。奥さんは勿論のこと、息子夫婦もともに積極的に農作業を手伝うそうである。自作地70アの水田は、整備前

は1枚の広さが0・6ア、114枚の石積みの棚田であったが、整備後1枚平均6ア、12枚の土坡の棚田にかわった。小作地38アの水田は9枚。1枚の広さが5ア前後、比較的大きく、作業の容易な棚田である。これら水田の命綱は大久手用水。用水が開削されるまでは、湧水や沢水に依存していたためし、早魃の被害にあつた。「落合郷土誌」によれば、日照りが続くと、山中の医王寺から鐘を借り出し、明沢川まで下ろして川の水で鐘を洗い、鷹巣山の頂上近くの金床岩まで担ぎ上げて岩の上に据え、雨乞い祈願を行ったという。

大久手用水が開削されてからは、長い用水路の維持管理に苦労したようだ。水路は昭和に入ってからコンクリート張りに改修されたが、それも5年ごとに修理を必要とし、5回の大改修がなされた後、2005年に7億円を投じて取水口から山中の医王寺まで直径70ア²のビニール管にかえられた。地元の山中・大久手・清水平の農家95戸は、1戸当たり10万円のほか、10ア当たり6万円を負担。非農家も雑用

水や防火用水として利用するとい
う名目で1戸当たり10万円を負担
したそつだ。

クリ園の再生・活用で 地域活性化を目指す

地域を活性化させる事業は、鷹
巣山の標高510〜630mにあ
るクリ園を活用する取組みである。
鷹巣山は、かつて尾張藩の鷹狩り場
であり、山には1間ごとにその範囲
を示す杭が打たれ、常駐する藩士
2名と地元の代表者3名により厳
重に管理されていたそつだ。山は、
明治維新後、落合村に払い下げら
れ共有地に、中津川市に合併後は
市有地になっていた。ここに大久
手の農家7戸が1980年頃14畝
のクリ園をひらいたが、1990



上：高い土坡の中ほどに小段が見える
中：縮小方針のモモ園
下：急傾斜の棚田が上まで続く

年代後半には単価の低迷と集落か
ら200mほど上らなければなら
ない通耕の難儀さから放棄された。

集落は、2004年に活性化組
織として「田舎楽園」を立ち上げ、
交流施設を設けて活動を開始。施
設では野菜類の直売のほか、集落
の女性たちが大久手公民館の調理
室を利用してつくるオヤキ・米粉
のクラスミ・ホオバすし・ホオバ
もちなどが販売されている。

一方、集落の一部の有志が放棄
されたクリ園の整備に着手、その
結果2008年までに3畝のクリ
園を復園した。これを都市住民と
の交流の場として活用することが
考えられ、40名以上の交流を条件
に県から提供された90万円の助成
金を資金にして、自然散策とクリ

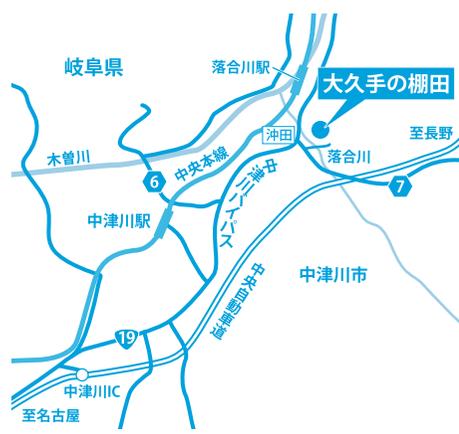
拾いの募集が行われた。

組織は、2009年にNPO法
人になり、理事長には集落の兼業
農家で運送会社に勤める嶋崎さん
が就任。実質的には小幡さんと集
落出身の市会議員可知さんが責任
者になり、国からの雇用創出の助
成金をえて3年間の期限つきなが
ら4名の専任職員を雇用している。

小幡さんは、専任職員の雇用を
継続させるために事業の拡大に余
念がない。集落内には8畝のモモ
園があるが、樹齢30年の老木が多

い。経営的には樹齢20年で更新す
る必要があるとされ、現在では収
量が減り面積も半減、将来的には
1畝に縮小することになっている。
「田舎楽園」では、これらを引き取
り、原料確保のためモモの選果所
を買収して進出を図ろうとしてい
るクリ菓子店の川上屋と提携、モモ
園からクリ園への転換を計画して
いるという。しかし、事業の創出
は容易ではなく、暇をみつけては
「田舎楽園」に顔をだす小幡さんの
苦労は当分続きそつである。

大久手の棚田へのアクセス



- 【公共交通】JR中央本線「中津川駅」から北恵那交通バス、馬籠行（大久手経由）で大久手停留所下車。
- 【自家用車】中央自動車道、中津川ICから中津川バイパス/国道19号線で約25分。

農の営みが教えてくれること

日本農業新聞編集局長 緒方 大造

山あいの小さな棚田

7月、2年間の九州支所勤務を終え、東京に戻ってきた。九州時代は各地の農山村を巡った。人と風土が織り成す風景が美しかった。佐賀県伊万里市の山中で出会った小さな棚田もそうだった(=写真)。深い山に囲まれ、そこだけ光が当たっているようだった。自然と目が喜ぶ。心がほぐれていく。役人用語で言えば条件不利地の零細な水田。だけど愛おしく感じるのはなぜだろう。「営み」という言葉が浮かぶ。その一枚一枚に想いを込め、自然と折り合いをつけながら、暮らしの糧を得てきた人々の営み。棚田の美しさは、その営みの尊さに宿るのではないか。

原発、この罪深きもの

「3.11」後の東京に戻ると、まったく違った風景と日常があった。空気はどんより重く、人々は息を潜めて何かに耐えているようだった。編集局の雰囲気もざらついたものに変わっていた。線量計を持った記者たちが、被災地の苛烈な現実を伝え、紙面を埋めていく日々。九州時代も、口蹄疫に鳥インフルエンザ、新燃岳の噴火など、災禍は繰り返し襲ったが、まだ終息を信じていることができた。だが、今回の大震災と原発事故は、農民や漁民の営み



山あいの小さな棚田(佐賀県伊万里市、2011年5月)

を根こそぎ奪い去ってしまった。人々の暮らしの場を村ごと押しつぶしてしまった。さらに罪深いのは、命のゆりかごである、森と田畑と海を今も放射線で汚し続けていることだ。

絶望を超えていく人々!

人々の営みがなくなった農村風景のなんと荒涼としていることか。日本で一番美しい村とうたわれた福島県飯舘村。ふるさとを追われた農民たちは、再び避難先などで種をまき、苗を植え、立ち上がろうとしている。市内全域でコメ作りを禁じられた南相馬市。知り合いの若い稲作農家は、子供になぜ今年は田植えをしないのかと聞かれ、言葉に詰まったと言う。彼はこの夏、放射線に抗うようにわずかなカボチャを植えた。ツバメの飛来を見て、田んぼに水を張った農家もいた。コメ作りはできなくても、巣づくりのツバメに泥を与えるためだけの行為。絶望的な状況の中でも、農の営みを忘れない姿に、一筋の希望を見る。

会員のひろば



会員の声募集!



「こんな活動をしています」「こんなことやります」という皆さんの声を編集部までお寄せください!「ご要望、感想やご質問でもOK!」(会員の声800字まで、会員レポート400字まで、写真も添えて) 〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-1-181-16 トーシンハイム704号「棚田に吹く風 会員のひろば」宛 メールでも受け付けています ↓ hiroba@tanada.or.jp



会員さんの Best Shot!

会員のみなさんの ベストショット募集!!



みなさんが撮影した棚田や作業風景の写真など、ベストショットをコメント(70文字程度)を添えて編集部まで送ってください。毎号、紹介させていただきます!送り先は下記。

〒160-0023
東京都新宿区西新宿7-18-16
トーシンハイム704号
「棚田に吹く風 ベストショット」宛
メールでも受け付けています
⇒ hiroba@tanada.or.jp



二人仲良く

東京都練馬区 玉崎修平
(長野県上田市稲倉の棚田)

棚田散歩



山口県熊毛郡平生町
ひなたびら
日向平の棚田

瀬戸内のMY棚田散歩
私の住む山口県東部の瀬戸内沿岸は、海からすぐに山となり平野に乏しい地形です。そのため棚田は到る所に見られます。自宅から山沿いに1時間も歩けば、小規模な棚田の10か所も過ぎてしまいます。平地の水田は江戸初期に遠浅の海を干拓して出来たものです。実家や小・中・高校も全部400年前に干拓して出来た土地にあります。斜面を切り開いた棚田も先人の苦勞の賜物ですが、こうした干拓地の水田も同様でしょう。

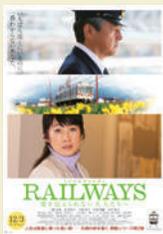
自宅近くの棚田を散歩することが、5年ほど前から生活の一部になっていきます。棚田を見下ろす地点に立つと、前方に干拓地も見えます。思えば、何百年もかけて人が自然に働きかけて作ってきた風景です。棚田は近年放棄地も増え、以前はなかった猪の害も発生しています。山の稜線には風力発電の巨大な風車が何基も建ちました。20キロ先には、3月以来工事中断となった新規原発建設予定地があります。この先、故郷の自然とそこに住む人とはどう向き合い関わっていくのだろうかと思うこの頃です。

(山口県柳井市 榎本 隆明)



RAILWAYS

愛を伝えられない大人たちへ



2011年 / 123分
配給：松竹
2011年12月3日
全国ロードショー
(11月19日富山先行公開)
公式HP
www.railways2.jp
©2011 [RAILWAYS2]
製作委員会

鉄道運転士・滝島徹、59歳。専業主婦として彼を支えてきた妻・佐和子、55歳。徹の定年退職を1カ月後に控え、佐和子は結婚を機に辞めた看護師の仕事再開すると言言するが、徹は妻の申し出を理解しようとしな。二人は口論となり、佐和子は家を飛び出してしま。舞台となるのは、長い歴史を誇る富山県の富山地方鉄道。雄大な北アルプスを背景に広がる田園風景が、あらためて日本の風土の美しさを伝えてくれる。人生を鉄道になぞらえて描く「RAILWAYS」シリーズ第2弾。

編集部イチオシ! BOOK & Movie



坂折棚田物語



伊藤憲男 著 / 写真
2000円(税込)
岐阜新聞社
2011年4月

日本の棚田百選にも認定されている岐阜県恵那市の坂折棚田。この写真家にとって坂折棚田を題材とした写真集は2作目になる。前作はいわゆる「風景写真集」だったが、本作は棚田オーナー制度の田植えや稲刈りの様子など、保全を意欲させる写真が織り込まれている。坂折棚田の景観保全活動がなければ、この写真集は誕生しなかった。美しい棚田を切り取った芸術性と、今の棚田や棚田保全活動の様子を切り取った記録性を併せ持つ写真集。



このコーナーでは、棚田ネットワークのスタッフの活動や事務局のことなどを幅広くお伝えしていきます。

新しいポストカードセット……
間もなく登場

報告 上久保郁夫

いま事務局では新しいポストカードの作成に取り組んでいます。

従来の絵葉書セットの在庫が少なくなったことから独自のポストカードを作ることにしました。2セット作ります。ひとつは棚田風景をテーマにしたもの、もう一組は棚田の営みや棚田をまもり続ける人物にスポットをあてたものです。いままでお寄せいただいた写真の中から5人のメンバーで選んでいただきました。11月中旬には完成予定です。ご期待下さい。



※サンプルイメージです

土曜日開いてま〜す!
遊びに来てくださ〜い!

報告 高野光世

9月から事務所の土曜日オープンが始まり、6週間が過ぎました。今のところ、訪問者は外部の方が一人のみ。もちろん、会員さんが続々と遊びに来るとは思っていなかったし、「いつでも開いている」ということが大切なので、当分続けます。

ただ、閉まっている週末もあります。例えば10月29日(土)は徳島県上勝町で棚田サミットがあり、スタッフが出払います。11月19日(土)も棚フェスで、事務所は不在。HPにカレンダーを設置しましたので、「寄ろうかな」と思ったときは念のためご確認ください。



結局、動かすのは人です

最近「Twitter」とか「Facebook」とかいう言葉をよく聞きますか？

会員の皆さんの中でも、もうアカウントをとって利用している人もいるかもしれませんね！いわゆる「SNS(ソーシャル・ネットワークキングサービス)」。有名な「mixi」をはじめ「youtube」や「ブログ」も含めた「ソーシャルメディア」として、従来型の「テレビ」「新聞」「雑誌」「書籍」などのメディアにとって代わるのではないかと言われています。

「ソーシャル・メディア」の特徴は、どんな人でも情報発信ができ、しかもそのほとんどが「無料」で行えること。同じ興味を持った人達をつなぐことを目的としたメディアなので、資金がないNPO団体にとっても、とても利用価値があります。現在、棚田ネットワークで使っている「ソーシャル・メディア」は「ブログ」「Twitter」「youtube」「mixpaper(電子書籍サービス)」などです。ただ、全部無料でできるのはいいのですが、あまりにもすぐに新たなツールが出てくるので、ついていくのが大変です。また、これらは、更新頻度を求められ、しかも更新できないと逆効果になるので、なおさらプレッシャーです(笑)。

いくら便利なツールが出来ても、結局動かすのは人です。人が増えないのに、ツールだけ増やしちやいけませんね。



今回のつぶやき人

事務局HP担当
kuwakuwa



栃木県茂木町

茂木プロジェクト

岩ノ作棚田で稲刈り



秋晴れのもと気持ちのよい稲刈りでした



最後にみんなで集合写真

今年の夏は岩ノ作棚田でもたいへん暑い日々が続きましたが、水枯れもなく、5月に田植えした稲は順調に育ち、実りの季節を迎えた9月17日に稲刈りを行いました。参加者は28名。当日は澄みわたる秋晴れのもとで、小林修一さんをはじめ地元農家の指導を受けながら、稲刈りとハサ架けに爽やかな汗を流しました。トンボの打空産卵をはじめ見た人も多かったようです。

田植えの時、実験的に行った1本植え、2本植え、3本植えの苗も順調に育ち、それぞれが立派な稲株に成長しているのを目の当たりにして、改めて稲の成長力に感心しました。それぞれの株に何本の穂が稔り、ひとつの穂に何粒の米ができていますでしょうか？参加者全員が宿題としてサンプルを持ち帰り、詳しく調査中です。集計すると、びっくりするような結果になりそうです。宿題を終えた人には、岩ノ作棚田の新米1kgがプレゼントされます。まだ終わっていない人は頑張ってください！（安井 一臣）

岐阜県恵那市

棚田ビオトープ プロジェクト

稲刈りと環境アート



ちょっと肌寒い曇り空の中、棚田ビオトープの稲刈りをしました。9月26日（月）、岐阜県立国際園芸アカデミーの学生など4名が参加。午後は畦畔と石垣の草取りをしました。

棚田ビオトープに日干しレンガで作った環境アート作品が9月19日に完成しました。タイトルは「遷移」（棚田に生きものをよぶ装置）で、園芸アカデミーの学生や教員によるもの。8月22日から25日まで坂折棚田の土、水、藁で日干しレンガをつくり、約3週間、天日で干した後、9月17日から19日にかけ積み上げました。高さ150cm、直径90cmの円筒形に積み上げられた日干しレンガの作品は、棚田ビオトープの中央にある大きな岩と、それにかかった橋の上に設置されています。この作品は時間とともに日干しレンガが崩れ、それから植物が生える姿を鑑賞する、自然に還る現代アートです。なお、設置期間は来年2月末までを予定しています。

（相田 明）

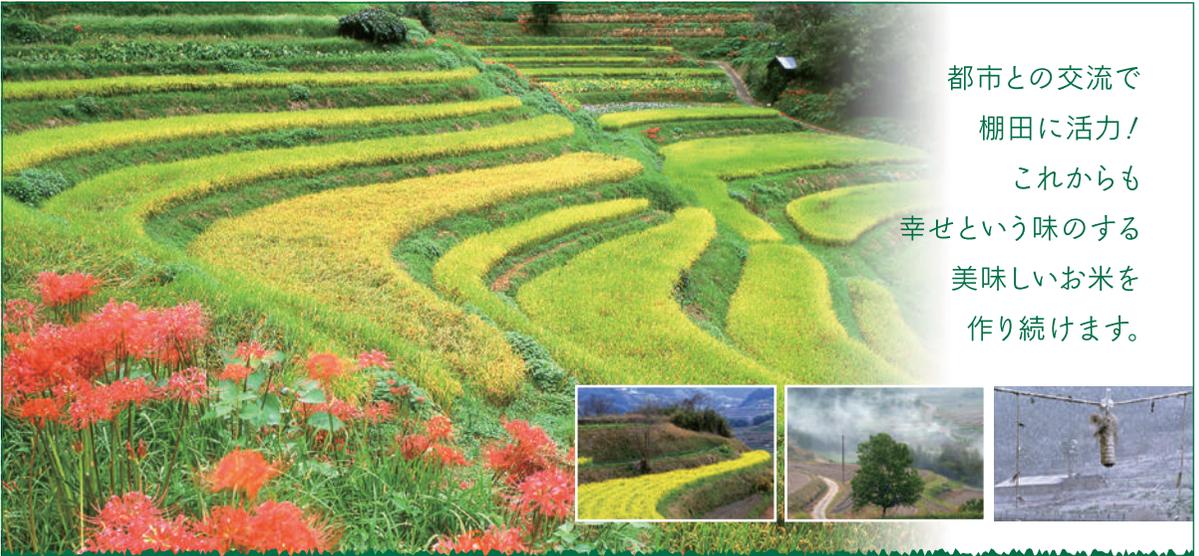
Topics 今年の「棚田フェスティバル」準備進行中！

11月19日（土）午後、東京・水道橋。会場と日程が決まり、企画の大枠も決まって、棚フェス準備が急ピッチで進行中です。これまでより少し狭い会場なので、ごんまりした印象になるかもしれませんが、その分コンパクトで中身のギュッと詰まったものにしたいと思っています。

前号で「二部構成」と書きましたが、やはり例年同様に全体を一つの流れて進めることになりました。メインテーマは「棚田米」。試食用の小さなおむすびを提供する「おむすび合戦」に、6団体がエントリーしています。形、具、ネーミング……どんな趣向を凝らしたおむすびが登場するでしょうか。また、お米を原料にしたいろいろな商品もご紹介する予定。会員の方には来場特典もあります。そして、「災害と棚田」のコーナー。もともと棚田は地氾り地帯の土地利用として作られてきた経緯があり、山津波などで壊滅的な被害を受けた歴史を持つところも多いのです。東日本大震災の翌朝に起きた「長野県北部地震」についての展示や報告などを準備中です。

今年は全ての団体が自費参加です。その心意気に応えるためにも、ぜひ各地の「棚田のまもりびと」に会いに来てください！





都市との交流で
棚田に活力!
これからも
幸せという味のする
美味しいお米を
作り続けます。

万葉集や古代史に彩られた明日香稲淵の里には”日本の棚田百選”に選ばれた美しい棚田があります。

オーナー制度をはじめ、蛸まつり、蓮華まつり、彼岸花まつり、収穫祭など、棚田保全・都市交流を積極的に行っているNPO法人です。
そのほか、生き物観察会やピオトープ管理などの環境教育、棚田米のブランド化など、明日香の未来のために挑戦し続けます!

特定非営利活動法人 ※15年間活動を続けてきた任意団体「棚田ルネサンス実行委員会」を発展的に解消して平成22年11月にNPO法人化しました。

明日香の未来を創る会 TEL. 0744-54-4024 E-mail: asukamirai@gmail.com

〒634-0123 奈良県高市郡明日香村大字稲淵593番地の1

ホームページも是非ご覧ください! ⇒ <http://www.asukamirai.org/>



わたしたちと「棚田の応援団」やりませんか!

棚田ネットワークは「棚田の保全に協力したい!」という会員によって自主的に運営されているNPOです。消えゆく美しい「棚田」をどのように保全していくことができるのでしょうか?一緒に考えませんか?ぜひ、私たちと棚田の応援団になりましょう!

会員になると!

会報誌「棚田に吹く風」(年6回)やイベント案内お届けの他、棚田ネットワークが主催する各プロジェクト(イベント)への参加や、スタッフとしての活動もできます。

年会費

- 個人会員
- 維持会員 1口1万円(1口以上)
- 一般会員 3,000円
- 学生会員 2,000円

法人会員を募集しています!

私たちの活動にご支援・ご協力をいただける企業、団体、事業主さまを募集しています。詳細はお問い合わせください。

年会費

- 法人会員
- 1口3万円(1口以上)

この上のスペース(ページ上1/2サイズ)は法人会員さまのPRスペースとして広告や広報にご利用いただけます。(詳細はお問い合わせください)

編集部から

みなさんも今年の稲刈りが終わった頃ですね。棚田ネットでも、9月17日に茂木町で稲刈りイベントを行いました。まあなんとというか、今年の稲刈りは感慨深いというか、ホッとしたというか、3・11以降、世界はどうなるのかという落ち着かない気持ちの中で、ひっそりと広がる棚田に、静かに、そして悠然と実る稲たちを眺めると、なんと勇気を与えてくれることでしょうか。逆に言えば、震災被害や放射能汚染で作付け出来なかったお米農家さんが、豊かに実る稲を見られないことが、どんなに悲しい気持ちになるのか。私たち日本人は、やはりこの黄金色の稲を見て豊かで平和な気持ちになるのでしょうか。何を優先すべきか。その答えを棚田に探しに行きましょう!

ホームページのぞき見!

「棚田とは」ページが全面リニューアルしました!



www.tanada.or.jp/
tanadadate/



2011年11月号 Vol.79

発行 NPO法人 棚田ネットワーク

〒160-0023
東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号
Tel / Fax 03-5386-4001
e-mail : info@tanada.or.jp URL : www.tanada.or.jp
郵便振替口座 : 00100-7-151565